

# 愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査（EDOR）報告

## 第 83 回（2023 年 10-12 月期）

2024 年 2 月 5 日

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施

問合せ先：曾我亘由（愛媛大学総合地域政策研究会） tel. 089-927-9238

大北雅浩（愛媛県中小企業家同友会） tel. 089-948-3112

文章：曾我亘由（愛媛大学社会共創学部産業マネジメント学科教授）

### 県内中小企業、業況は好転超も採算は 2 期連続緩悪化

#### 【調査要領】

- (1) 調査期間 2023 年 12 月 1 日 ～ 2024 年 1 月 27 日
- (2) 対象企業 愛媛県中小企業家同友会会員企業
- (3) 調査方法 郵送による自計記入
- (4) 回答企業数 調査対象企業数 377 社、回答企業 107 社（回答率 28%）

#### 【EDOR 調査結果概要】

（売上高、採算、採算水準、業況）

前回 2023 年 7-9 月期調査では、売上高 DI については、前期比、前年同期比とも高い水準を維持するも、採算および自社業況判断 DI については前年同期比で悪化する結果であった。ただし、そのトレンドは 2022 年第 2 四半期（第 78 回調査）以降回復基調にあるため、採算は緩やかに改善するも景況感には一服感があり足踏みとした。今回の調査では、売上高 DI については前回からは悪化するものの依然として増加超であったのに対し、採算については前年同期比で 2 期連続で悪化し、悪化超であった。しかしながら、自社業況判断 DI については前回から好転する結果となり、採算は悪化するものの業況は悪くないという結果となった。

まず、売上高 DI については、前期比で 10.9 から 21.7 へと 10.8 ポイント好転したが、前年同期比では 24.8 から 12.3 へと 12.5 ポイント悪化した。採算（経常利益）DI については、前期比で 3.7 から 5.7 へと 2.0 ポイント改善したが、前年同期比では 4.6 から -1.9 へと 6.5 ポイント悪化した。採算水準 DI（黒字赤字 DI）は、DI 値は 30.2 となり、前回の 19.3 から 10.9 ポイント改善した。自社業況判断 DI については、前期比では -8.3 から 12.1 へと 20.4 ポイント改善、前年同期比では -0.9 から 9.3 へと 10.2 ポイント改善する結果となった。

前年同期比で採算が好転した 30 社にその理由をたずねたところ、売上数・客数の増加を挙げる企業が 66.7%（20 社）と最も多く、次いで売上単価・客単価の上昇を挙げる割合が 50.0%

(15社)であった。売上単価・客単価の上昇を挙げる企業の割合は、この1年ほぼ横ばいで推移しているが、売上数・客数を挙げる企業の割合は減少傾向であり、前年の10-12月期調査(第79回調査)の90.5%から23.8ポイント下落している。

一方、採算が悪化した企業32社については、売上数・客数の低下を理由に挙げる割合は68.8%(22社)となり、前回の75.9%から7.1ポイント減少したが、依然として最も高い結果となった。また、原材料費・商品仕入額の上昇を挙げる企業の割合は46.9%(15社)、人件費の増加を挙げる割合は31.3%(10社)という結果となった。

判定会議では、採算と自社業況に関する議論を中心に行った。「コロナ後、売り上げは一貫して伸びているが円安の影響等でコストが増加し、利益を圧迫している。」「価格転嫁ができ仕事は忙しく、採算も好転してきたが、賃上げしないと従業員を採用できない状況である。」「価格転嫁できた企業とできない企業に差がある、価格転嫁できた企業についても、売り上げは増加したが、人件費の増加までは賄そうにない状況」また、自由記述では、「1年ぶりの好況、価格転嫁ができ売上、利益とも上がった(製造業)」、「インバウンド需要の拡大で忙しい(菓子製造)」、「価格転嫁による売上げ増はあるが、人流が多くなり年末にかけて財布の紐はやや緩んでいる感じ(小売)」などといった意見がある一方、「市場停滞による売上低迷、卸売上低迷のため売上が苦戦している(食品)」、「工事資材の高騰、工事費用の増加により、価格競争が激化している(建設)」、「物価高騰のため購買意欲が低く感じる(流通)」、「一連の値上で、売上や採算は回復しているが、需要の後退が表面化してきているのではないか(製造業)」などといった声もあり、業種間で好調、不調などの意見があった。また、幅広い業種で人件費の増加や人手不足についての記述がみられた。

#### (経営上の問題点・力点)

経営上の問題点については、前回調査と同様、「仕入単価の上昇」を挙げる企業の割合が最も高く45.6%であった。次いで「従業員の不足」を挙げる企業の割合が高かったが、前回の31.5%から10.2ポイント増加し41.7%であった。また、「人件費の増加」を挙げる企業の割合も4期連続で増加し32.0%となり前回の29.6%から2.4ポイント増加した。「民間需要の停滞」を挙げる割合は26.2%となり、前回の28.7%から2.5ポイント減少した。「仕入先からの値上げ要請」を挙げる企業の割合については7.8%と前回の13.9%からは6.1ポイント減少する結果であった。

経営上の力点については、前回と同様「新規受注の確保」を挙げる企業の割合が42.9%と最も高く、次いで「付加価値の増大」を挙げる割合が40.0%という結果となった。「社員教育」と「人材確保」を挙げる企業の割合はどちらも36.2%であった。また、「情報力強化」を挙げる企業の割合は16.2%であり、前回の24.5%からは8.3ポイント減少した。

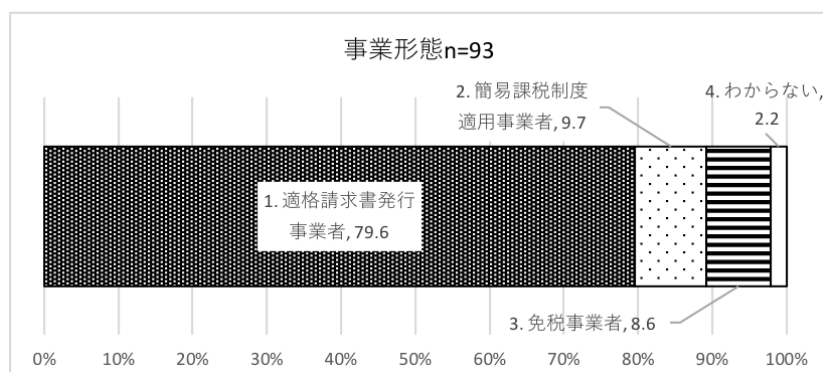
以上の結果から、今回の調査では売上高DIについては前回から悪化したが、依然として増加超であった。一方、採算については前回までは好転超を保っていたが、今回は悪化超に転

じる結果となった。しかしながら、業況判断については、原材料費、燃料費、人件費等の高騰などから採算は悪化し、力強さに欠けるものの全体的には好転超であり、業種によって好不調のまだら模様である。新型コロナウイルスの影響も落ち着き、企業が置かれている環境も新しくなった。これまでの状況から改めて自社を見直し、新しい環境に適応できるかがカギである。

(特別調査)

今回はインボイス制度についての特別調査を実施した。2022年1月に電子帳票保存法が施行され、インボイス制度が2023年10月より始まった。これによる影響等について調査した。

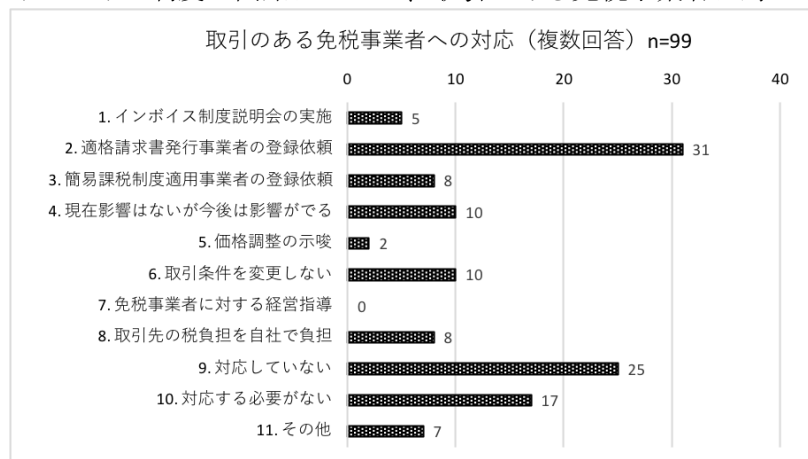
● 消費税・地方消費税に関する事業者



インボイス制度開始後の事業形態については、適格請求書発行事業者が最も多く79.6% (74社)であった。また、簡易課税制度適用事業者は9.7% (9社)であり、免税事業者は8.6% (8社)であった。

● 取引のある免税事業者への対応

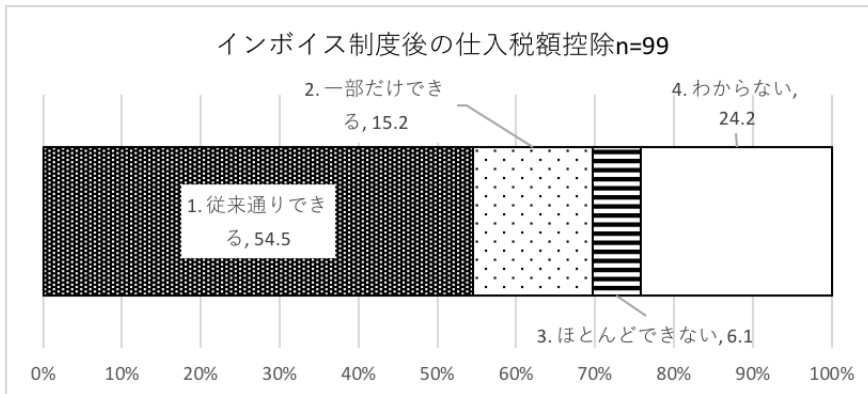
インボイス制度の開始によって、取引のある免税事業者に対してどのような対応や依頼をしているかについては



(n=99)、適格請求書発行事業者の登録依頼が最も多く31社、簡易課税制度適用事業者の登録依頼は8社であった。また、「対応していない」と回答した企業が25社、「対応する必要がない」が17社であった。

また、現在影響はないが今後は影響が出ると回答した企業は10社であり、取引条件を変更しないと回答した企業も10社であったが、免税事業者とは仕入れをしないと回答する企業もみられた。

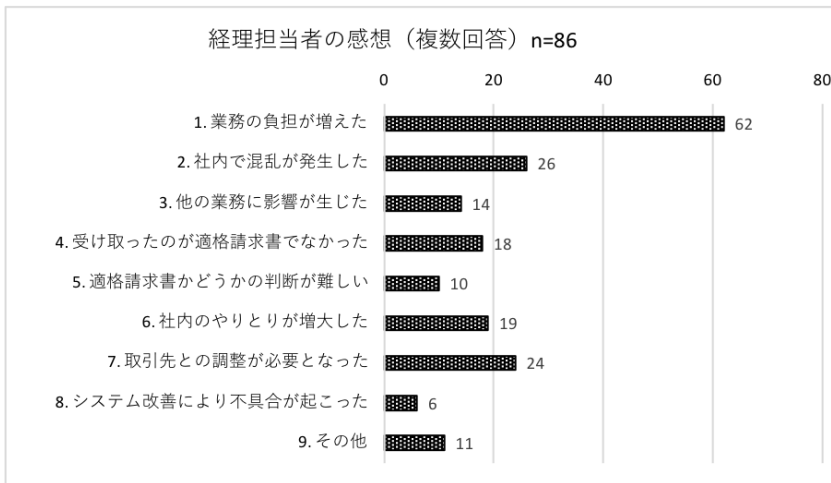
● インボイス制度後の仕入税額控除



インボイス制度開始後の仕入税額控除については、従来通りできると回答した企業は 54.5% (54 社)、一部できると回答した割合は 15.2% (15 社)、ほとんどできないと回答した割合は

6.1% (6 社) であった。また、わからないと回答した企業は 24.2% (24 社) であった。

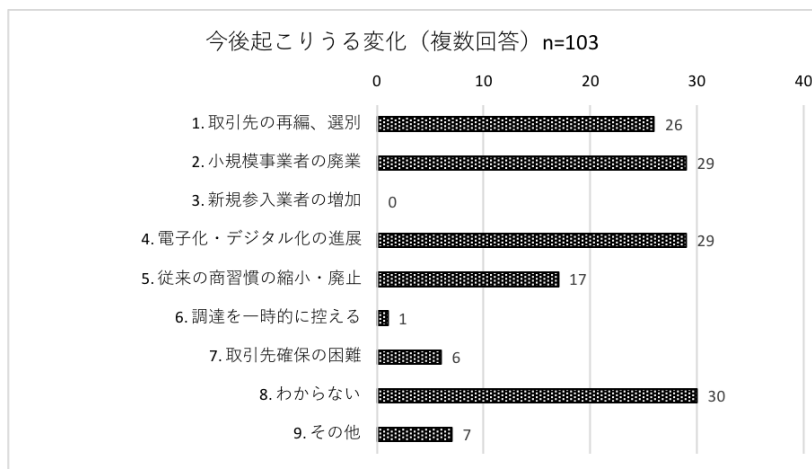
● 経理担当者の感想



インボイス制度が始まって、経理担当者が感じた感想について複数回答で答えてもらったところ (n=86)、「業務の負担が増えた」が 62 社、「社内で混乱が発生した」が 26 社、「取引先との調整が必要となった」が 24 社等、業務負担に関する回答が多い結果と

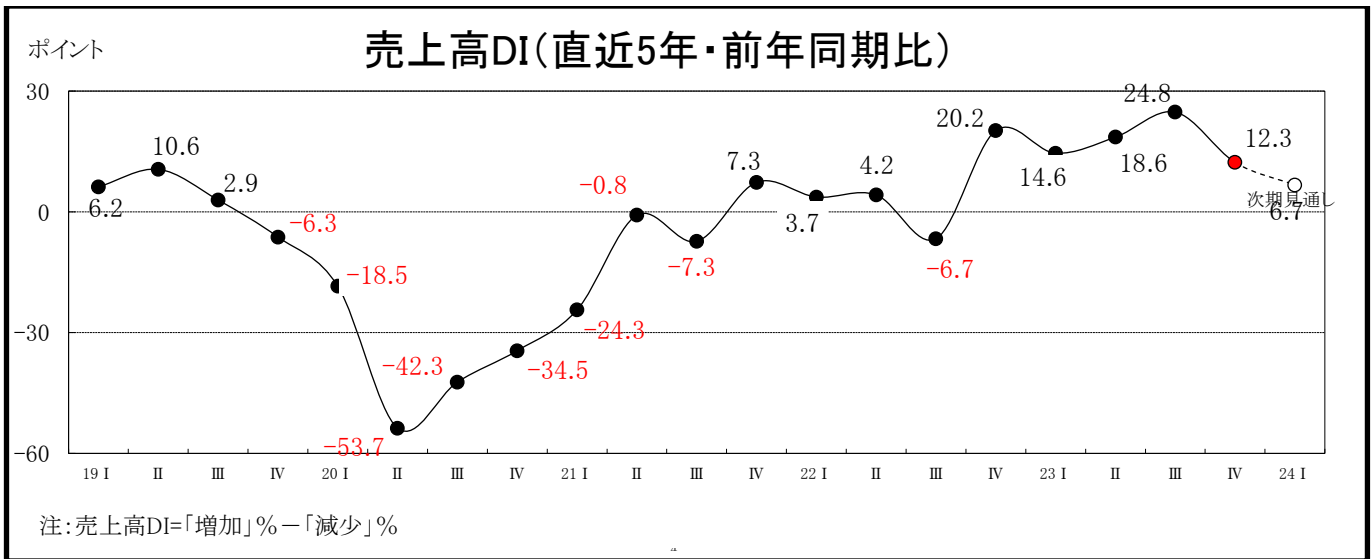
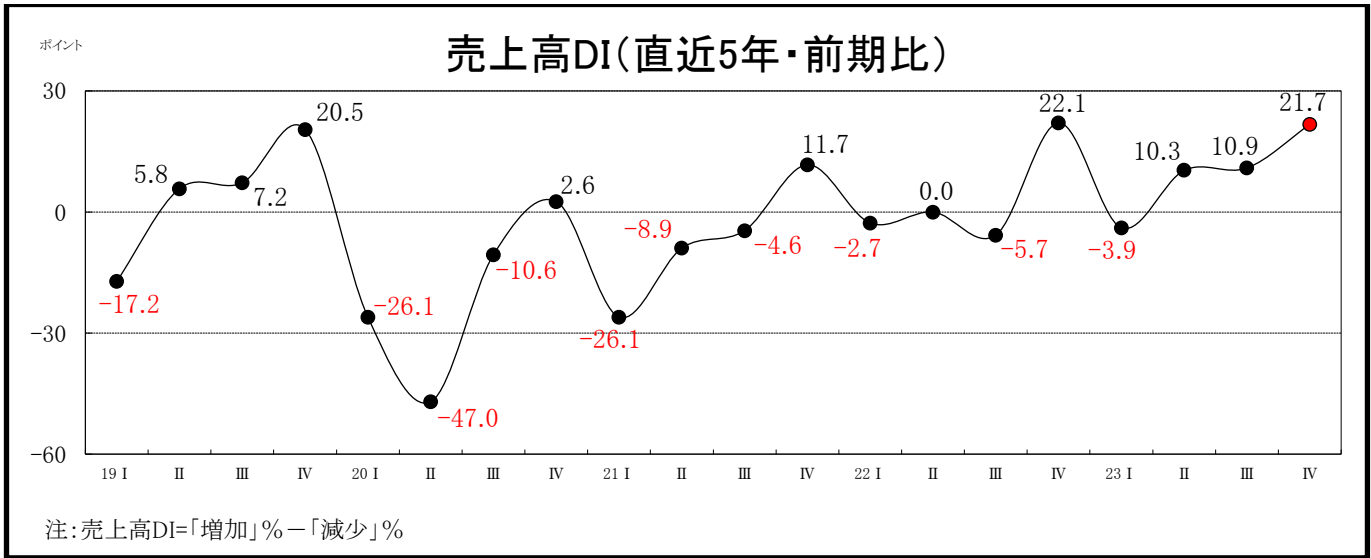
なった。

● 今後起こりうる変化



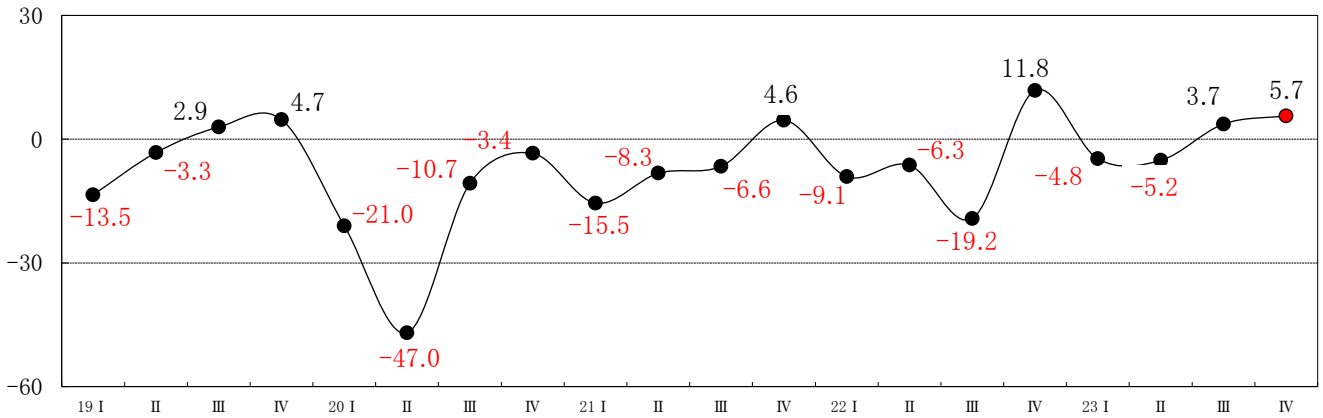
インボイス制度後に業界で起こりうる変化について複数回答で回答してもらったところ (n=103)、小規模事業者の廃業と回答した企業が 29 社、電子化・デジタル化の進展が 29 社、取引先の再編、選別が 26 社、従来の商慣習の縮

小・廃止が 17 社という結果となった。また、今後の変化についてわからないと回答した企業は 30 社であった。



ポイント

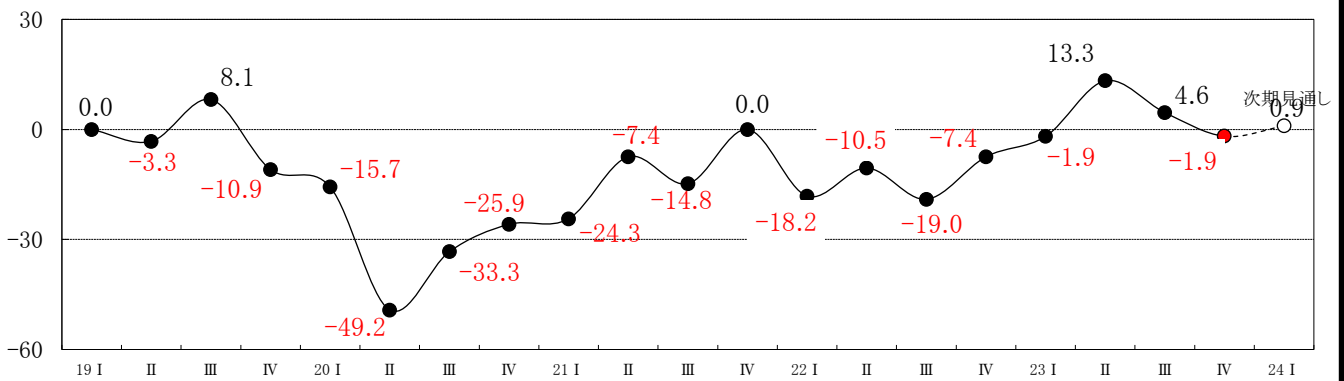
### 採算(経常利益)DI(直近5年・前期比)



注:採算DI=「好転」%-「悪化」%

ポイント

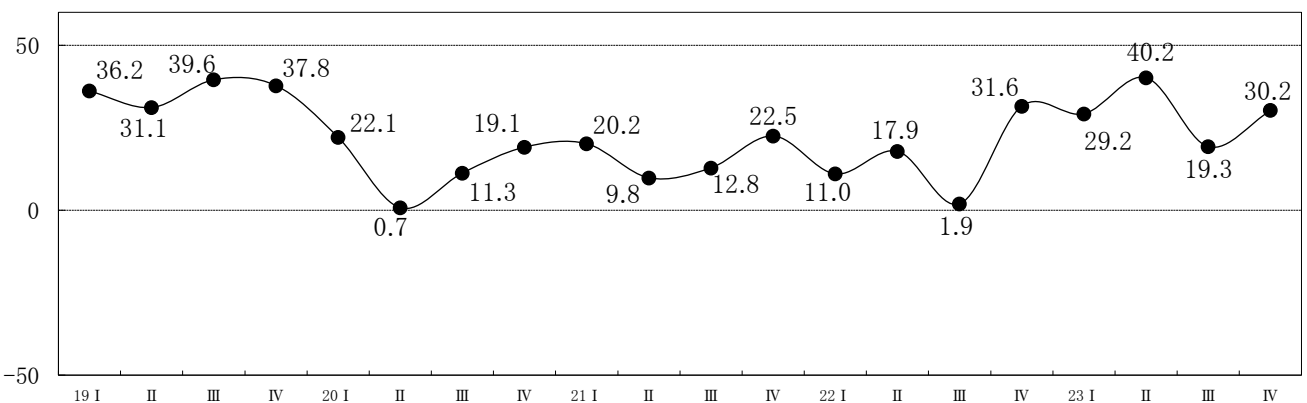
### 採算(経常利益)DI(直近5年・前年同期比)



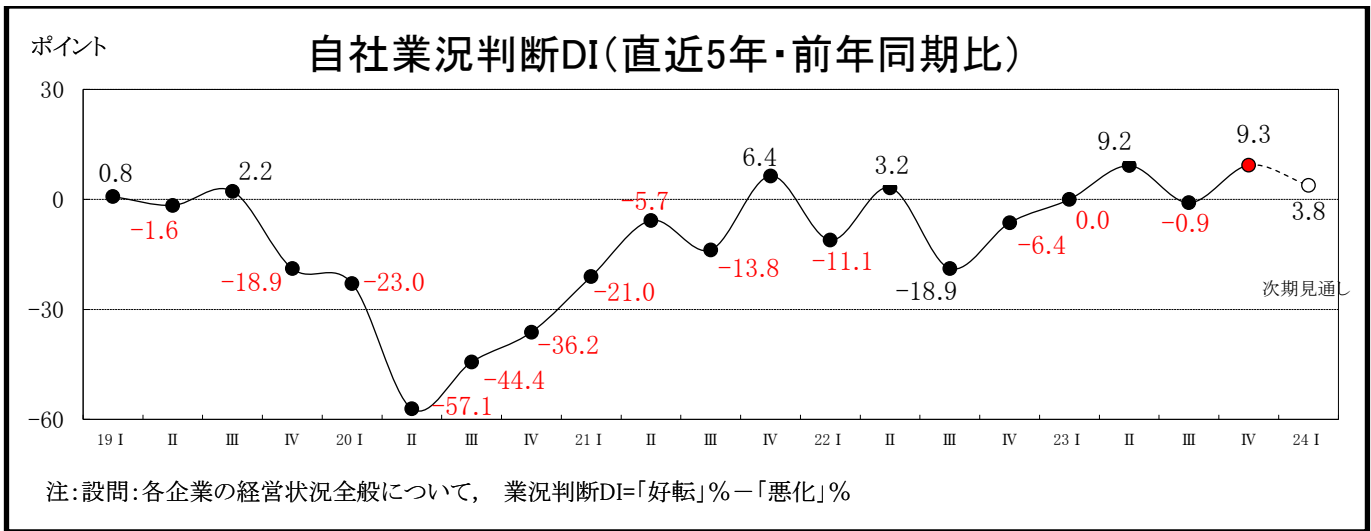
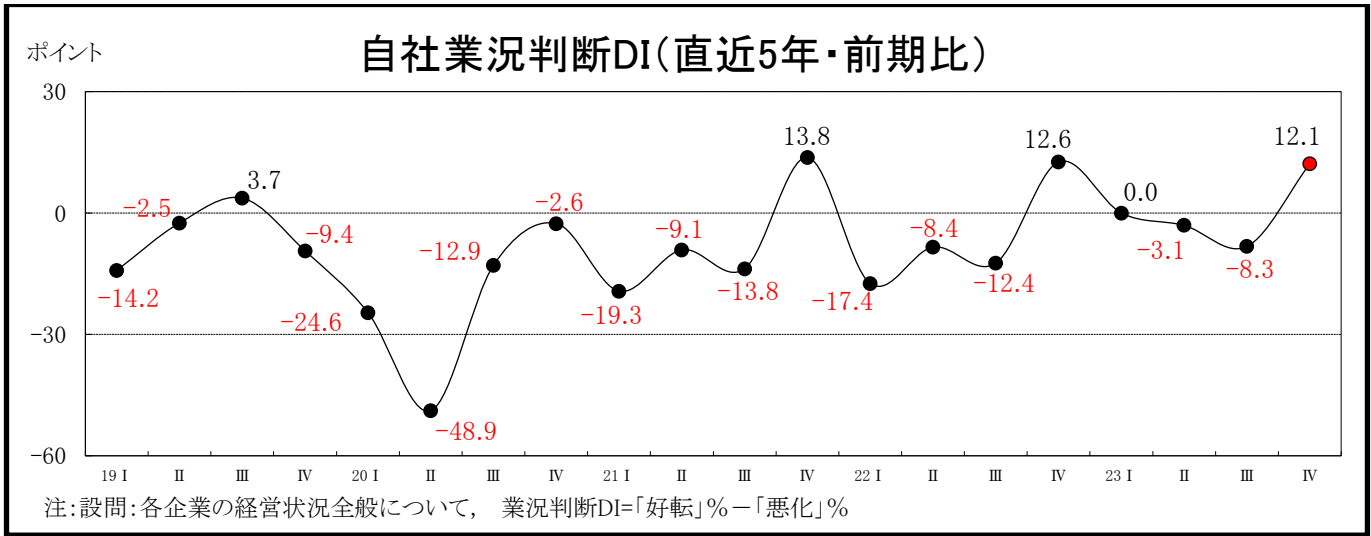
注:採算DI=「好転」%-「悪化」%

ポイント

### 採算水準DI(直近5年・当期)

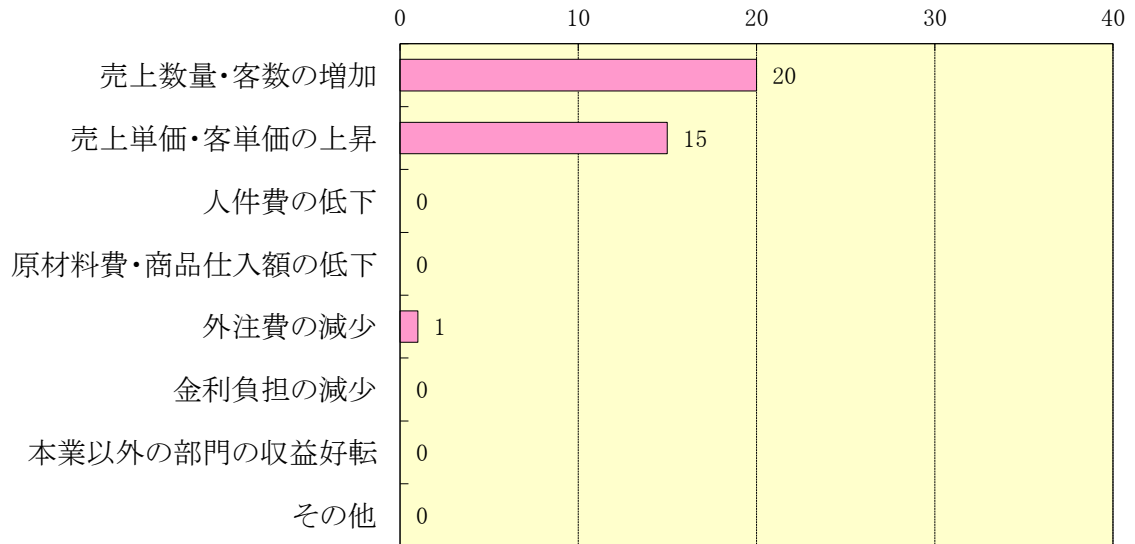


注:採算水準DI=「黒字」「やや黒字」%-「やや赤字」「赤字」%



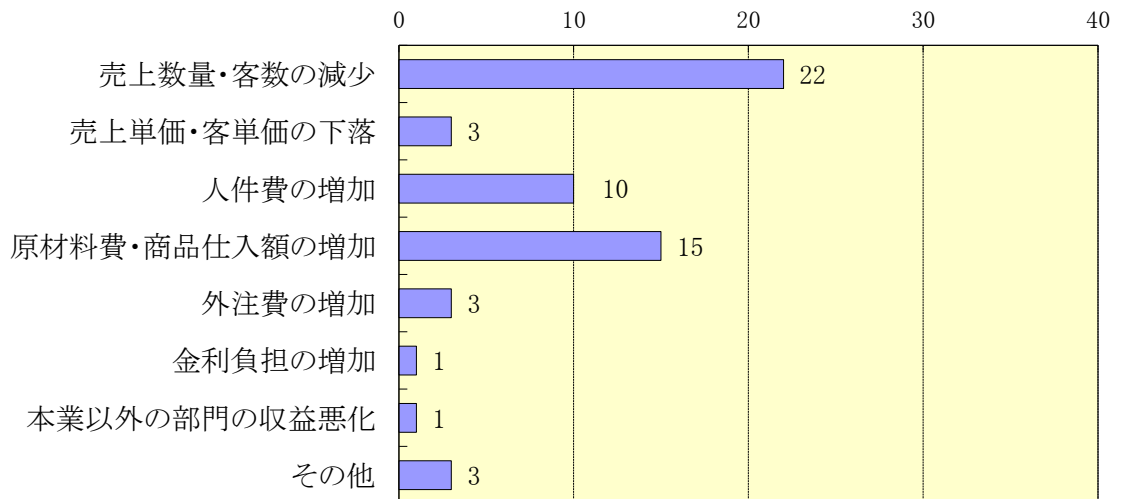
### 採算好転の理由

回答数



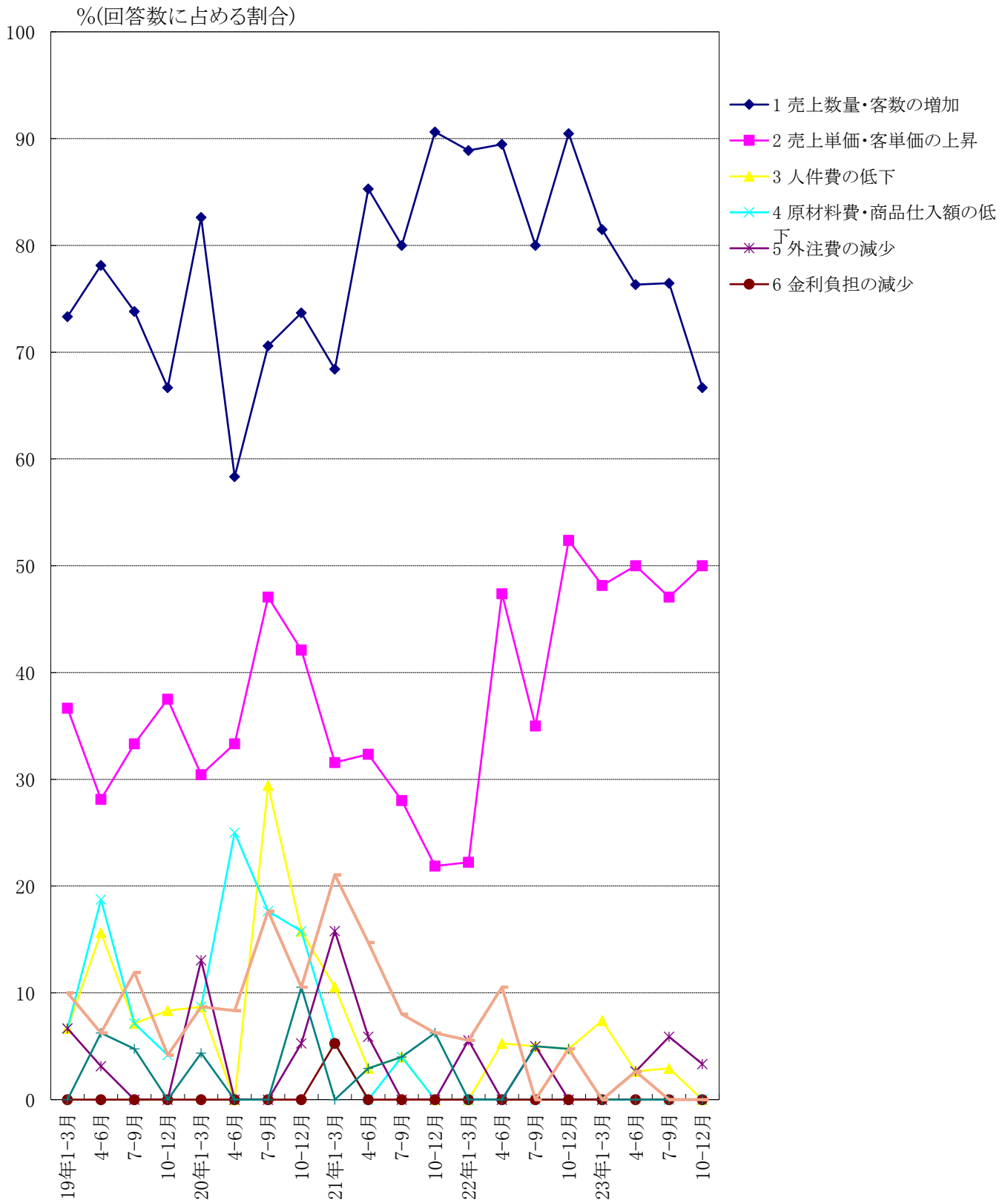
### 採算悪化の理由

回答数



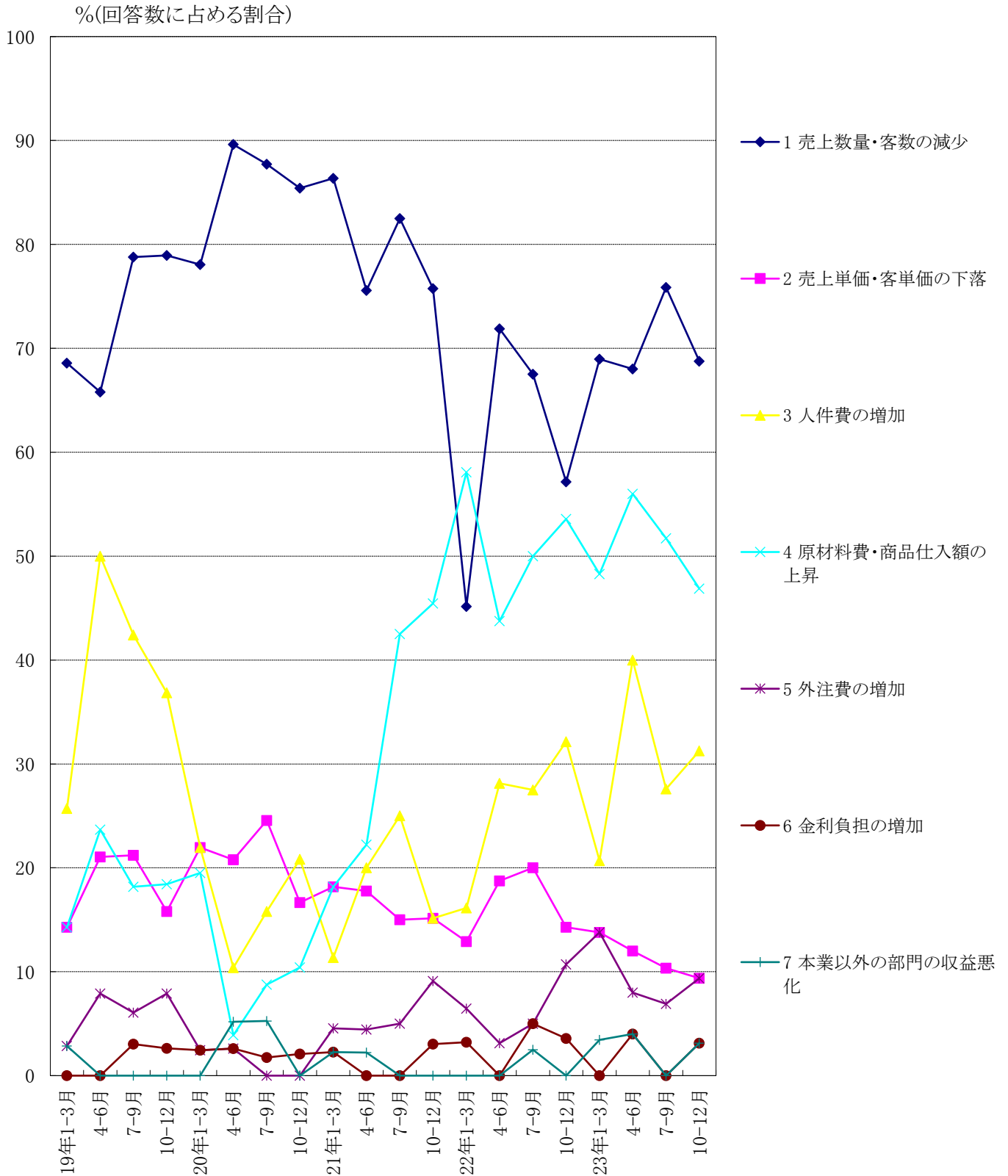


## 採算好転の理由の推移(直近5年)



(備考) 選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

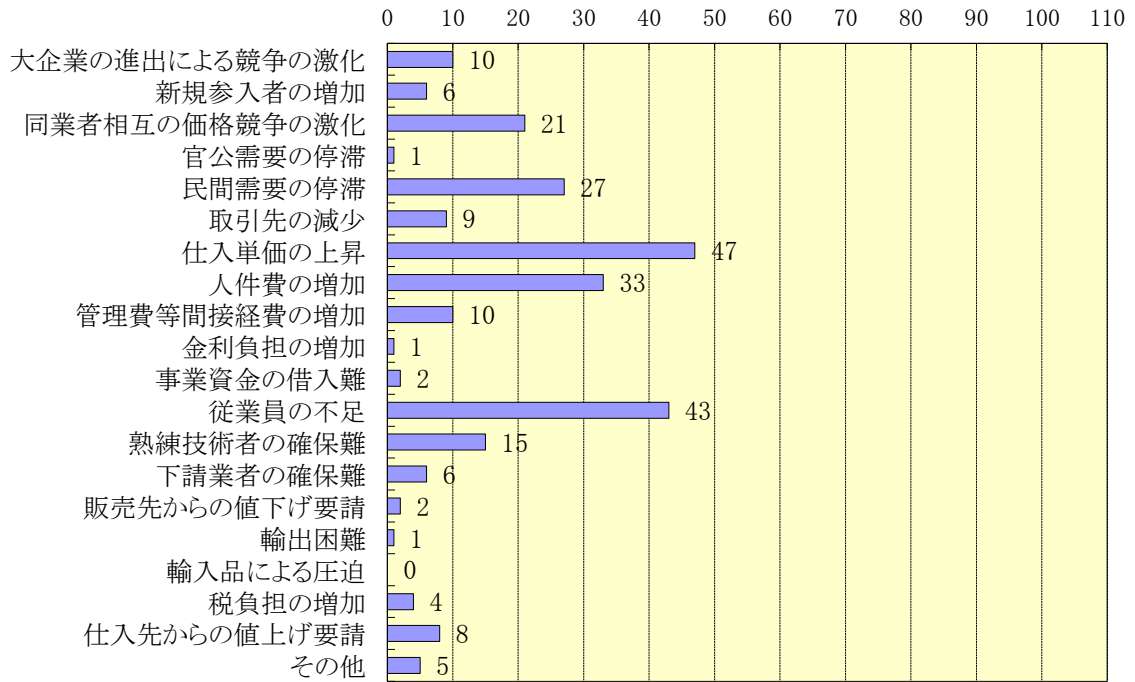
## 採算悪化の理由の推移(直近5年)



(備考)選択肢から3つを選んだ際の選択率。凡例は選択率の高いものから並べた。番号は設問における各選択肢の番号。

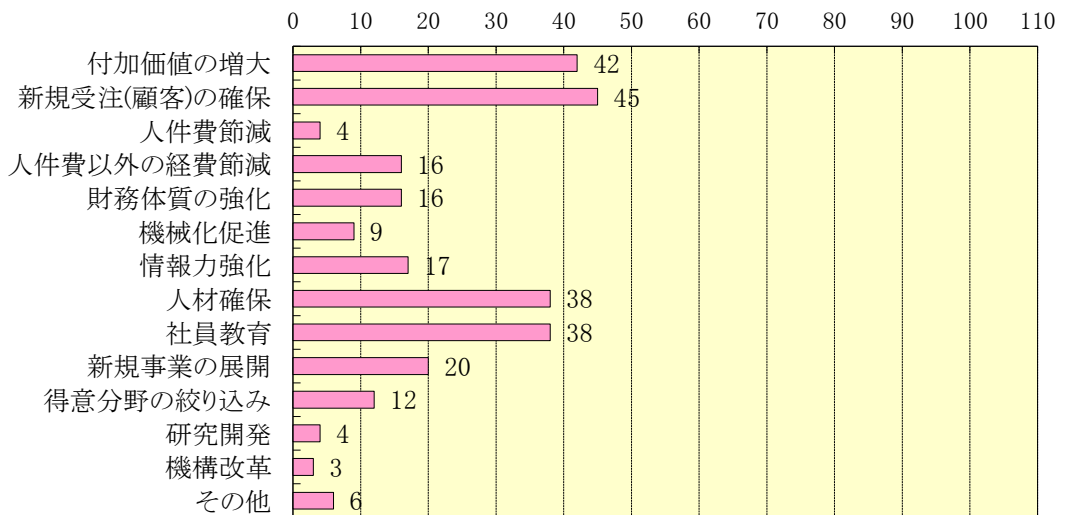
### 経営上の問題点(選択肢から上位3つ選択)

回答数

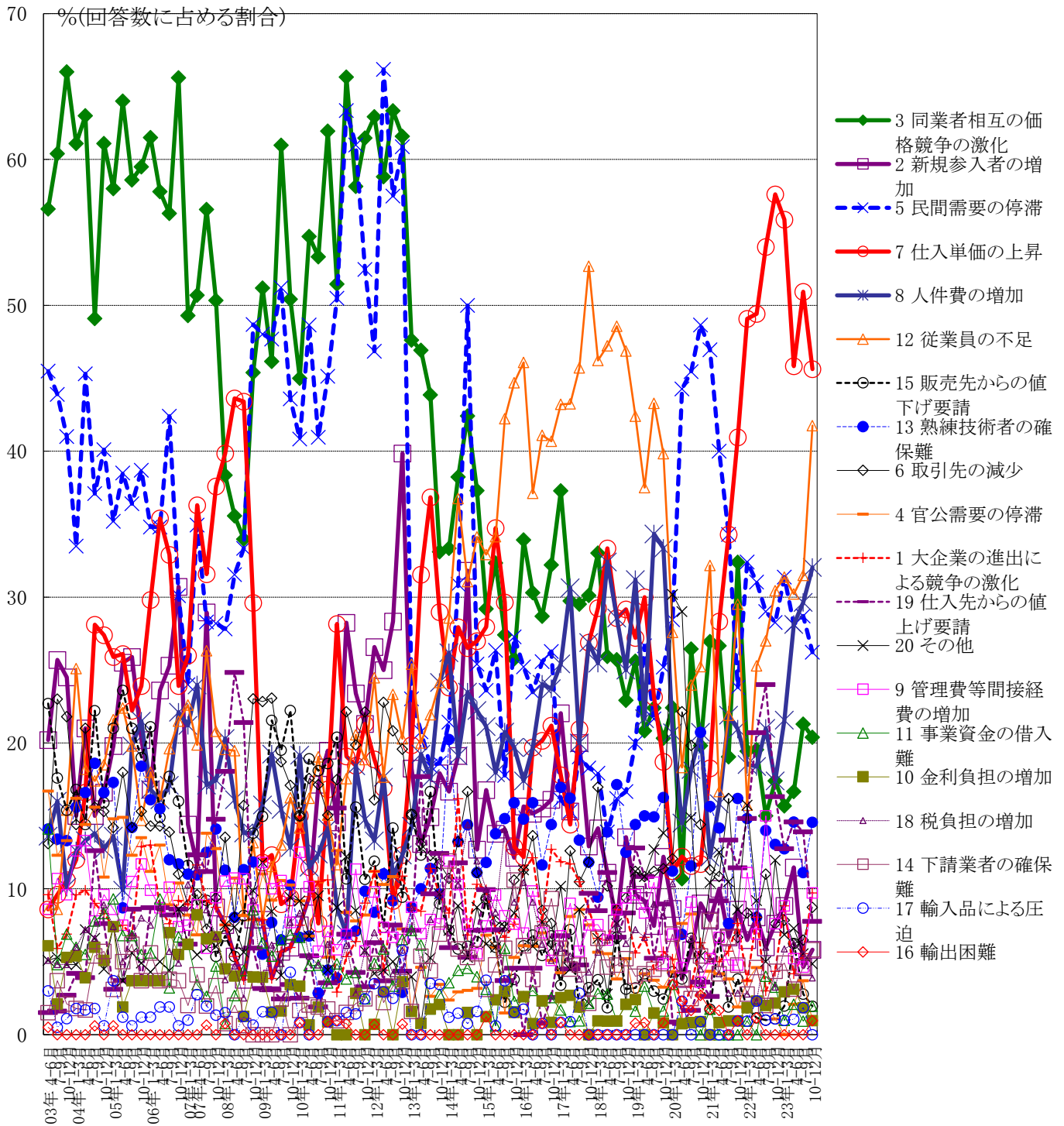


### 経営上の力点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



# 今期における「経営上の問題点」の推移(2003年4-6月～2022年10-12月)



# 次期に考える「経営上の力点」の推移(2003年4-6月～2022年10-12)

